

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和5年5月31日現在）

ぎふ農畜産物のブランド展開

■果樹 果樹園に微気象観測装置と予察資材を設置

農業普及課が構成員として参画している飛騨地域果樹産地協議会は、令和5年度から国の「グリーンな栽培体系への転換サポート」事業に採択された。

本事業では、従来のスケジュール防除から、微気象観測と害虫発生予察を活用した適期防除への転換を目的としており、農業普及課は事業の企画提案やデータ収集・技術検証等の役割を担う。

管内果樹園3ヶ所において、4月21日に微気象観測装置、5月11日に害虫発生予察資材（対象害虫7種）を設置し、微気象観測と害虫発生予察をそれぞれ開始した。

今後は生産者及び関係機関と連携しながら、データの収集・分析や活用方法の検証を通し、適期防除への転換に向けた取り組みを支援する。



【フェロモントラップ設置作業】

■水稻種子・丹生川採種組合 令和5年産の種子生産が始まる

飛騨地域の水稻の種を生産する丹生川採種組合の令和5年産種子生産が始まった。4月13日の総会で、本年度の栽培方針「病害のない優良な種子生産」と年間計画を確認した。5月9日には苗を審査する苗代巡回を組合役員とともに実施した。5月20日からは田植えが始まっている。

農業普及課では、今後、ほ場審査や発芽試験により種子の品質等を確認することで、米生産の安定に欠かせない種子生産を支援する。



【苗代巡回】

■水稻 環境保全型精密農業の実証がスタート

農業普及課は今年度からコンソーシアムの一員として国の「戦略的スマート農業技術の実証・実装」事業に参画している。飛騨市の農業法人が核となり農林水産省に応募し、全国12課題の1つとして事業採択された。

令和5～6年度の2年間で、土地改良後の大区画ほ場に水稻・大豆を栽培し、スマート農業技術による栽培管理に豚ふんペレット利用を組み合わせた環境保全型精密農業の確立を目指す。

4月からコンソーシアムメンバーで内容について議論を重ね、5月16日には国が主催するリモートによる課題設計検討会に臨み、実証が始まった。

今後はコンソーシアムメンバーが専門性を発揮しながら、現地実証によるデータの収集・分析や飛騨地域への波及に取り組む。



【関係者が事業設計を検討】

■高山トマト部会 グループ活動及び研究班活動を支援

5月18～25日、高山市内の生産者ほ場にて高山トマト部会グループ別現地研修会および研究班の活動検討会が実施された。

部会内では、3グループと1研究班が、年間4回程度の現地研修会を開催し、意見交換を行っている。また、研究班では生産者自らトマトの栽培に関する各種試験に取り組んでいる。

農業普及課はJAひだの営農指導員と共同で、定植後の苗管理や梅雨入りにむけた病害虫管理について説明を行った。今後も引き続き各種研修や現地試験の実施方法に関する提案を通し、活動を支援していく。



【定植後の生育状況について意見交換】

■丹生川トマト部会 若手グループ活動を支援

5月25日、JAひだ丹生川支店にて丹生川トマト部会若手班のグループ研修会が開催された。

当班は、若手部会員の交流を深める場として今年設立され、30代までの有志32名で構成されている。

当日は19名の出席があり、4～5人のグループに分かれ梅雨時期の灰色かび病対策をテーマに活発に討議が行われた。討議後は各グループで出た意見を発表し合い、予防的に使用する農薬や、必ず実施すべき管理について共有した。

参加者からは「情報交換ができ有意義だった」と好評だった。農業普及課は、若手の経営安定及び担い手育成のため、引き続き支援を行っていく。



【意見交換を行う若手生産者達】

■スナップエンドウ 吉城地域の目揃え会及び現地研修会を開催

飛騨地域では数年前からスナップエンドウを各地域で栽培している。他産地からの出荷量が減少する5～6月に出荷可能なため、安定した単価で取引されている。

5月26日、スナップエンドウ目揃え会及び現地研修会が開催され、生産者12名が出席した。

今年からスナップエンドウは飛騨全域で統一の規格となったため、生産者は変更点等をしっかり確認した。農業普及課からは、追肥の重要性と病害虫対策について説明した。

農業普及課では、今後も栽培指導を継続し、スナップエンドウの安定生産を支援していく。



【目揃え会風景】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■飼料イネ 専用品種のは種に立会い

5月11日、高山市朝日町の生産者が稲ホールクロップサイレージ(WCS)専用品種「つきすずか」のは種を行った。

「つきすずか」はコシヒカリ等の主食用米品種に比べ、牛が消化しにくい籾の量が少ない品種である。畜産農家が利用しやすい飼料イネを目指し、朝日町で初めて栽培を行う。

農業普及課では、今後、生育や収量の調査を行い、生産者への支援を行っていく。



【「つきすずか」をは種】